

はじめに

グローバル化に伴い、外国人の子どもたちが日本の公教育に占める割合も増えてきました。このような日本語指導を必要とする児童生徒の最近の傾向として、ポルトガル語や中国語を母語とする子どもの数が減り、フィリピン語を母語とする子どもが増えていることがあげられます。また、ネパールやパキスタン、タイなどにルーツを持つ子どもも増えて、多国籍化していることも特徴としてあげられるでしょう。

そこで、当 NPO では、より多くの子どもが初期指導をひととおり終えた後、しっかりと教科学習に取り組むための『用例付学習語彙 6000 語 日英対訳』を出版いたしました。

学習語彙と生活言語との峻別は不可能ですが、現場の日本語指導者 20 数名がかかわって学習に必要な言葉を帰納的に選定し、用例文もまた 2 年余りかけて検討しました。

日本語を第二言語とする子どもが、学年相当レベルの日本語能力に達するには 5 年以上かかると言われていています。一方、クラスメートらは複数教科で日々新しいことを学んでいるのですから、追いつくのは簡単なことではありません。教科の学習をしながら日本語能力も高めていくには、効率的に学ぶための学習の場や指導者、教材が必要でしょう。しかしながら、今のところ学校も地域の日本語教室も、それらの提供については十全とは言えません。だからこそ、自律した学習が必要となります。子ども達が自学自習の習慣を身につけるために、この日英対訳付きの用例集を役立ててください。

語学は地道な努力が必要で、すぐにその成果は見えてこないかもしれませんが、確かな言語能力と学力を身につけるため、この学習語彙集で日本語の意味と使い方を確認し、語彙を増やし、読解力をつけて、思考する言語能力にまで高められるよう期待しています。また、この教材の文内容を題材に、指導者やボランティアとく対話を通して学習すれば、話す力や書く力はより確実なものとなります。

このテキストをお使いになる学習者が、将来、二つ以上の言語と文化を理解する人間として、共生できる穏やかな社会を体現してくれることを願っています。

特定非営利活動法人日本語・教科学習支援ネット

代表 樋口万喜子